

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第二主日礼拝 2020年6月14日

前奏：

招きのことば：詩編 100 編

全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

喜び祝い、主に仕え 喜び歌って御前に進み出よ。

知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。

わたしたちは主のもの、その民 主に養われる羊の群れ。

感謝の歌をうたって主の門に進み 賛美の歌をうたって主の庭に入れ。

感謝をささげ、御名をたたえよ。

主は恵み深く、慈しみはとこしえに 主の真実は代々に及ぶ。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちを御心にとめてくださり、あなたの御子イエス様によって私たちの罪を赦して神の子としてくださいました。過ぐる一週間も、御手によって守り導いてくださり、また今朝共に主の御前にお導きくださいましたことを感謝いたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大の心配を持ちながら、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。困難がありますが、その中で私たちを励まして、私たちがこれからもさらに互いを赦し、また高め合って歩んでいけますように導いてください。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹でカづけてください。今日から始まる新しい一週間も、あなたに遣わされているところで、御名のみ栄のために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ 5章 1-8節

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

福音書朗読：マタイによる福音書 9章 35節—10章 8節

イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いをいやされた。また、群衆が飼いの羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、汚れた霊に対する権能をお授けになった。汚れた霊を追い出し、あらゆる病気や患いをいやすためであった。十二使徒の名は次のとおりである。まずペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、フィリポとバルトロマイ、トマスと徴税人のマタイ、アルファイの子ヤコブとタダイ、熱心党のシモン、それにイエスを裏切ったイスカリオテのユダである。イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならな

い。むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところへ行きなさい。行って、『天の国は近づいた』と宣べ伝えなさい。病人をいやし、死者を生き返らせ、重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

讚美歌：239番

1. さまよう人々 たちかえりて あめなる御国の 父を見よや
罪咎(とが) 悔やめる 心こそは 父より与うる たまものなれ
2. **さまよう人々 たちかえりて 父なるみかみの みまえに行き
まことの悔いをば 言いあらわせ 世人は知らねど 知りたまえり**
3. さまよう人々 たちかえりて 主イエスの御許(みもと)に とくひれふせ
わが主は憐れみ み手をのべて こぼるる涙を 拭いたまわん
4. **さまよう人々 たちかえりて 十字架の上なる イエスを見よや
血潮(ちしお)の滴(したた)るみ手をひろげ「生命をうけよ」と招きたもう アーメン**

説教：「飼い主のない羊のように」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は聖霊をお与えになり、弟子たちを全世界、すべての国の人々に遣わされました。先週は、「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」と約束のみ言葉を与えていただきました。弟子たちの信仰は決して完全なものではありませんでした。イエス様のことを信じていると同時に、ふと疑ったりするのが現実であった弟子たちは、権威あるこのみ言葉に支えられて、その生涯をイエス様を伝える使命にささげました。

ところで、天地の一切の権威を授かったイエス様の約束をいただいた弟子たちの働きですから、さぞ、楽な、心地のよいものだっただろうと思いませんか。イエス様の権威は無敵です。私たちの罪をせおって十字架に死んでくださり、そして悪魔と罪と死の力に打ち勝ってよみがえってくださったイエス様です。父なる神様からさずかったその絶対的な権威があれば、福音を世界に伝える弟子たちには困難なことはひとつもなく、すべてが整えられていて、人々を教え、洗礼をさづけ、イエス様を信じる人々の交わりを導いていったことと推察しがちですね。

しかし、事実は正反対でした。確かに、弟子たちはけんめいに伝道しましたが、そのために人々の迫害に会いました。ペテロやパウロは投獄されました。鞭うたれ、町から追い出されたりもしました。ヤコブなどは石打ちの刑にあい、いのちを奪われました。

なぜ弟子たちの宣教は楽なものではなかったのでしょうか。天地の一切の権威を授かったイエス様から与えられた使命ならすべてバラ色のはずです。なぜ普通の人々が味わわないような苦しみや抵抗にあい、なぜ祈って計画した通りに働きが進まないのでしょうか。

イエス様の力がなかったからではなく、また、弟子たちの力不足、信仰の不足があったからではありません。弟子たちは喜んで苦しみを担ったのです。ヒントは今日開かれているマタイの福音書9章35節からの箇所にあります。イエス様はかつてこの弟子たちを連れて町や村を巡られました。そのときご覧になった町や村の姿、そのあと弟子たちを呼び集めた理由、町や村に弟子たちを遣わすときに話されたイエス様のことが記されています。

イエス様は普通の日常生活が営まれている町や村を巡り歩かれました。私たちが伊丹のまちを歩くときと同じです。あなたは人々の服装や表情をご覧になりますか。イエス様の目は違うところに注がれました。人々が弱り果てて、打ちひしがれているのをご覧になりました。イエス様には人々は倒れてしまっていて、うなだれてしまっていると見たのです。イエス様は腸(はらわた)がねじられるほどの深いあわれみを感じました。そこで、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、病気や患いをいやしてくださいました。

イエス様の権威によって世界に遣わされていった弟子たちも人々をイエス様と同じように見ました。人の目には強くしっかりしているように見えても、神様の前には弱り果てて、打ちひしがれていた人々です。困っています。弱っています。孤独です。困っていることを怒りで表現する人もいます。いらいらしている人もいます。どうにもできないともう諦めている人もいます。イエス様の権威で世界に遣わされた弟子たちも、イエス様と同じ目で世界をみただけです。イエス様は心の奥をご覧になります。

あなたは世界をどうご覧になっているのでしょうか。あなたも神様の権威をいただいています。父と御子と聖霊の御名によって、神様はあなたを罪の中から救い出し、そして今週もあなたを人々の間に住むように導いていてくださいます。この一週間、出会う人々のことを思い描いてください。

人々の本当の姿は外から見えません。その人と話して自分の得になるか、損になるか、と考えているとわかりません。でもどんな人でも、人に言えないつらい、悔しいことを心にもちつつ、それでも普通通りに暮らしておられますね。当たり前だ、とおっしゃるかもしれません。いつも怒っている怖い人がいます。いつも絶望的でものごとを悪い方に考える人もいます。つらいことがいろいろあっても弱音を吐かずに懸命に明るく生きている人もおられます。表面的に強がって、だれの助けも必要はないようにしている人でも、人に言えない思いを押し殺して生きています。イエス様は、自分中心でわがままな私たちの心の傷も、人と比べて勝手に落ち

込んでいるどうしようもない被害者意識も、何かのストレスを誰かをいじめることで晴らしたいというどろどろした思いも、人に見せないすべての罪や身勝手な私たちの心をご存知です。イエス様は町や村を巡りながら、人々の服装や表情ではなく、人生に傷ついている心の姿、飼い主のいない羊のような姿を見てくださるのです。イエス様の権威によって遣わされた弟子たちも、人々を見るときに神様の前での姿を見たのです。

イエス様は次に何をなさいましたか。9章37節から10章4節に示されています。弟子たちに、「収穫は多いが、働き手が少ない。収穫のために働き人を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」と言われ、12人のお弟子を選んでくださいました。

誰にでも人の心がわかるわけではありません。人々は自分の心の傷や、弱みを誰にでも見せないのですから。これ以上傷つかないように、かたく心をガードして暮らしています。このように自分を守って生きている人は、他の人を助けません。誰でも「働き手」になれません。

イエス様はその権威によって教え、宣べ伝え、病をいやしました。ご自分の権威によって、つまりイエス様は人々が頼んだからではなく、ご自分の深いあわれみのゆえにすべてを成し遂げてくださいました。十字架で傷つき、いのちを与えてくださいました。私たちがお願いしたからではなく、私たちが弱く、不信仰で、罪びとであり、神様に敵対しているとき、神様に私なんか放っておいてほしい、どうにもならないから、と自暴自棄に思っているときに、私たちを見捨てない神様は救い主イエス様を遣わしてくださいました。神様は私たちにわがままを責めるのではなく、イエス様によって私たちの罪をイエス様によって赦してくださったのです。

そして私たちが暗い、絶望の中にとどまらなくてよいように、よみがえりのいのちを与えてくださいました。神様の愛を信じて、人々のためによるこんで生きていく生きがい、自分を鍛えて成長する喜びを与えてくださいました。これまでは自分が傷つかないようにバランスを保つのが精いっぱいだったのに、人々に育てただけのように喜んで力を注ぐ新しい心を与えてくださいます。

このように、イエス様の十字架と復活によって自分のわがままから解放されて新しい命に生きていく人が、イエス様のおっしゃった「収穫のための働き人」です。12人の弟子を選びました。自分がイエス様によって心癒されて、人に仕える喜びの心を新しくいただいた人です。

イエス様は12人のお弟子たちを呼び寄せて、権威を与えて町や村に派遣していきました。10章8節に、そこではイエス様から罪の赦しと新しいいのちを「ただで受けたのだから」人々に「ただで与える」ようにと命じられました。病人も、死んだ人も立ちあがります。人か

らのけものにされているひとも、みんなの輪のなかに迎え入れられるように助けます。どうにもならない諦めの中にいる人にも、イエス様のお名前による希望を分かち合います。

弟子たちは人々から理解されませんでした。弟子たちがイエス様のしてくださったことをお分かちしても、思い通りにすぐ受け入れられることは少く、むしろ苦しめられました。けれども迫害を受けても、いのちを奪われるようなことがあっても、なお、イエス様のことをお伝えして歩きました。イエス様からただで受けた、罪の赦しと新しいいのちを、ひとびとに分かち合うための権威を与えられていたからです。天の国は近づいた！と力強く語り続けました。

今日は聖餐の恵みにあずかります。あなたもあなたのために裂かれたイエス様のからだ、あなたの罪を赦すために流されたイエス様の血にあずかって、罪の赦しと新しい命をいただき、豊かな使命に生きていきます。あなたも「収穫のための働き人」としていただきます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。
(くりかえし) マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2
2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあつて我らは生きる。
(くりかえし)

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。 **アーメン**」

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番**赦しの宣言**

主イエスのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。
(くりかえし) マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。 **X2**

讃美歌 : 354 番 献金 献金感謝の祈り

1. 牧主(かいぬし)我が主よ 迷う我らを 若草の野辺に 導き給え
我らを守りて 養い給え 我らは主のもの 主に贖(あがな)わる
2. 良き友となりて 常に導き 迷わば尋ねて 引き返りませ
我らの祈りを 受け入れ給え 我らは主のもの ただ主に頼る
3. 赦(ゆる)しの御誓(みちか)い 救いの恵み 清むる力は 皆(みな)主にぞある
我らを贖い 生命(いのち)を賜(たま)う 我らは主のもの 主に在(あ)りて生(い)く
4. 御慈愛(みいつくしみ)をば 我らに満たし 今より御旨(みむね)を なさしめ給え
我らを憐れむ 御恵(みめぐ)み深し 我らは主のもの 主をのみ愛す **アーメン**

頌栄 : 讃美歌 541 番

父、御子、御霊の大御神(おおみかみ) に、ときわに絶えせずみ栄えあれ、み栄えあれ。
アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**。

後奏